

株式会社島津製作所(東証プライム市場：証券コード7701)

2026年3月期 通期決算説明会

代表取締役社長 CEO 山本靖則



2026年5月13日

※本会議の内容に関しては、現時点の予測に基づく将来の見通しを述べる場合がございますが、これらは全てリスク並びに不確実性を伴っております。実際の結果が見通しと異なる場合があることをあらかじめご了承ください。

本日はお忙しい中、株式会社島津製作所の2025年度通期決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

本日は、2025年度の通期実績、2026年度の業績予想、各事業の状況、そして今後の成長に向けた取り組みについてご説明いたします。

当社を取り巻く事業環境は地域や市場によって濃淡がありますが、その中でも動きのある市場、お客様の投資が継続する市場で成長していくことを目指しています。

本日のご説明を通じて、当社の現在地と今後の方向性をご理解いただければ幸いです。

ハイライト

通期業績 増収増益

- ・売上高は6期連続で過去最高。営業利益・経常利益・当期純利益も2期ぶり過去最高
【売上高】 **5,607億円 (前期比+4%)** 【営業利益】 **737億円 (前期比+3%)**

セグメント別

- ・計測：増収増益 /売上高は6期連続で過去最高。費用増も、増収により増益
- ・医用：増収増益 /増収と採算性改善で増益
- ・産業：減収増益 /営業利益は3期連続で過去最高
- ・航空：増収増益 /売上高・営業利益とも過去最高を更新

地域別

- ・日本：増収 /計測の*重点機種や航空の防衛関連などが堅調に推移
- ・海外：増収 /欧州、その他のアジア地域が貢献、これら地域の売上構成比が拡大
- ・海外売上高比率は56.7%と持続的に拡大

*重点機種：液体クロマトグラフ、質量分析システム、ガスクロマトグラフ

2027年3月期 業績予想

- ・中東情勢の不透明さはあるものの**売上高、営業利益いずれも過去最高を目指す**
- ・TESCAN社業績は、クロージング前のため織り込まず
- ・【売上高】 **5,750億円(前期比+3%)** :動きのある市場でお客様と共に成長を
- ・【営業利益】 **760億円(前期比+3%)** :価値訴求と経費抑制に取り組む

昨年度の決算についてご説明いたします。

2025年度の通期業績は増収増益で終わることができました。売上高は6期連続で過去最高となり、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益についても、2期ぶりに過去最高となりました。

セグメント別では、四つのセグメントすべてが増益となりました。計測機器、医用機器、航空機器は増収増益でしたが、産業機器については残念ながら減収となりました。ただし、産業機器も利益面では改善しています。

計測機器については、売上高が6期連続で過去最高を更新しています。

地域別では、日本が、計測機器の重点機種に加え、航空機器の防衛関連などが堅調に推移し、増収となりました。海外も、欧州およびその他のアジア地域が貢献し、増収となっています。

この結果、海外売上高比率は0.3ポイント上昇し、56.7%に拡大しました。

2026年度の業績予想については後ほど詳しくご説明しますが、現時点では売上高5,750億円、営業利益760億円を見込んでいます。

01 決算概要

連結 / 業績

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

	単位：億円	通期		前期比		
		FY2024	FY2025	増減額	増減率	
業績	売上高	5,390	5,607	+217	+4%	為替影響額 売上高：▲2億円 営業利益：▲2億円
	営業利益	717	737	+20	+3%	
	営業利益率	13.3%	13.1%	▲0.2pt		
	経常利益	720	828	+107	+15%	為替差損益 +92億円
	親会社株主に帰属する当期純利益	538	605	+67	+13%	
	ROE	10.9%	11.4%	+0.5pt		
	ROIC	10.0%	9.6%	▲0.4pt		
為替	平均為替レート：米ドル(円)	152.63	150.81	▲1.82	▲1%	
	ユーロ(円)	163.78	174.83	+11.05	+7%	
	研究開発費	289	291	+2		
	設備投資額	229	221	▲8		
	減価償却費	199	204	+5		

* 記載の数値は億円未満を四捨五入した数値となっており、表記上の合計値、差額と合わない場合があります。

続いて、連結業績の概要です。

売上高は5,607億円となり、前年度に対して217億円の増加、+4%の増収となりました。為替影響はほとんどなかったため、実力値として217億円 増えたと考えています。

営業利益は737億円となり、前年度より20億円増えました。公表値に対しても少し上振れした形です。

一方で、営業利益率は13.1%と、前年度から0.2ポイント低下しました。これは、M&A関連費用や研究開発費など、将来に向けた費用を使っていることによるものです。

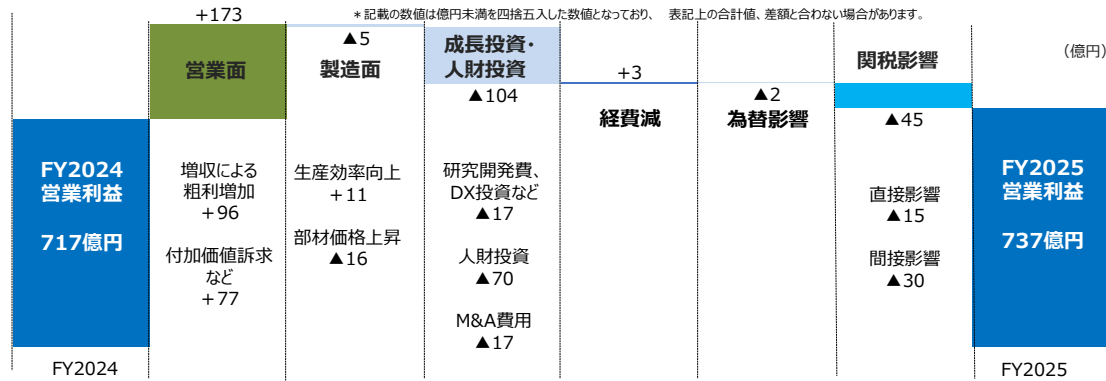
経常利益と親会社株主に帰属する当期純利益は、為替差益が92億円出て おり、大きく伸びました。

なお、研究開発費は2億円増、設備投資は8億円減、減価償却費は5億円増 という内容です。

連結 / 営業利益増減要因

【営業利益】 737億円(前期比+3%) 【営業利益率】 13.1% (対前期▲0.2pt)

■ 営業面	: 増収や付加価値訴求により増加	+173億円
■ 製造面	: 生産効率向上で+11億円、部材価格上昇で▲16億円、全体で減少	▲5億円
■ 成長投資	: 研究開発・DX投資17億円、人財投資70億円増、M&A関連費17億円	▲104億円
■ 関税影響	: 関税▲15億円増加、市況悪化による減収で減益▲30億円	▲45億円



営業利益の増減要因についてご説明します。

前年度の営業利益717億円に対し、2025年度は737億円となりました。

営業面では、売上増加による粗利の増加に加え、新製品投入や価格改定、付加価値訴求の効果があり、営業面全体で173億円の増益要因となりました。

一方、製造面では、生産効率改善やコストダウン、自動化などを継続して進めています。部材価格の上昇や協力工場からの値上げも受け入れているため、トータルでは5億円の減益要因となりました。

成長投資・人財投資については104億円を投下しています。ここには研究開発費やDX投資、人財投資、M&A関連費用が含まれています。

DX投資については、AIの進展を踏まえ、社内のデータをいかに賢く集めて賢く処理するかという観点から、今後かなりの投資をしていく予定です。

人財投資については、日本では定年延長により、ここ2年から3年程度は人員が増える状況にあります。海外では減らしているところもありますが、全体では70億円増えました。M&A関連費用は17億円です。

経費面については抑制を進め、3億円の経費減となりました。

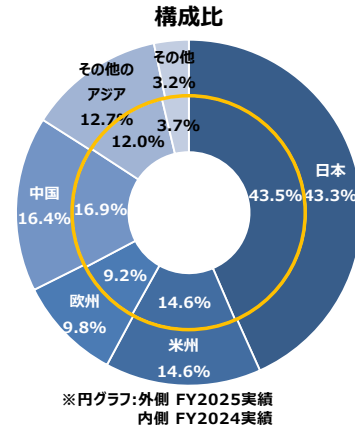
また、関税影響については当初想定よりも大きくはならず、最終的には45億円の影響となりました。

これらを踏まえた結果として、営業利益は737億円で着地しています。

連結 / 地域別売上高

- 日本、その他アジア地域、欧州が牽引し増収に。中国は横ばいで構成比16.4%に減少
 - 日本：計測の重点機種が医薬品や化学分野で、医用のX線撮影システムと航空も増加
 - 海外：米州、欧州、インドで液体クロマトグラフ、質量分析システムが増加
- 中国、台湾、韓国で半導体向けTMPが増加

単位 億円	売上高				構成比		
	FY2024	FY2025	増減額	増減率	FY2024	FY2025	前期比 増減
日本	2,345	2,425	+80	+3%	43.5%	43.3%	▲0.3pt
海外	3,044	3,181	+137	+5%	56.5%	56.7%	+0.3pt
米州	785	818	+33	+4%	14.6%	14.6%	+0.0pt
欧州	495	548	+53	+11%	9.2%	9.8%	+0.6pt
中国	913	917	+4	+0%	16.9%	16.4%	▲0.6pt
その他のアジア	649	714	+65	+10%	12.0%	12.7%	+0.7pt
その他	200	182	▲18	▲9%	3.7%	3.2%	▲0.5pt



地域別売上高についてご説明します。

全体としては、日本、欧州、その他のアジアが牽引し、増収となりました。まず日本では、航空機器の防衛が大きく伸びました。これに加えて、計測機器では液体クロマトグラフと質量分析システムが伸び、さらに医用機器の新製品も増加し、全体で80億円の増収となりました。

欧州では、質量分析システムと液体クロマトグラフが伸びました。特に東欧の国で、環境分析向けのGCMS (※) の大口案件が寄与しています。

その他のアジアでは、計測機器の質量分析システム、液体クロマトグラフ、ガスクロマトグラフが伸びたことに加え、医用機器のX線テレビが大きく伸び、増収となりました。

一方、米州については、北米で関税問題などによる厳しい市況がありましたが、計測機器では北米R&Dセンターが開発した臨床向けの質量分析システムが好評を博し、伸長しました。ただし、航空機器と産業機器の一部が弱く、全体としては4%増にとどまっています。

中国については、半導体関連は大きく動いているものの、計測機器分野は依然として厳しい状況が続いており、全体では前年並みとなりました。

この結果、中国の構成比は0.6ポイント低下し、米州やその他アジアの構成比が上がり、地域別売上高のバランスは改善してきたと考えています。

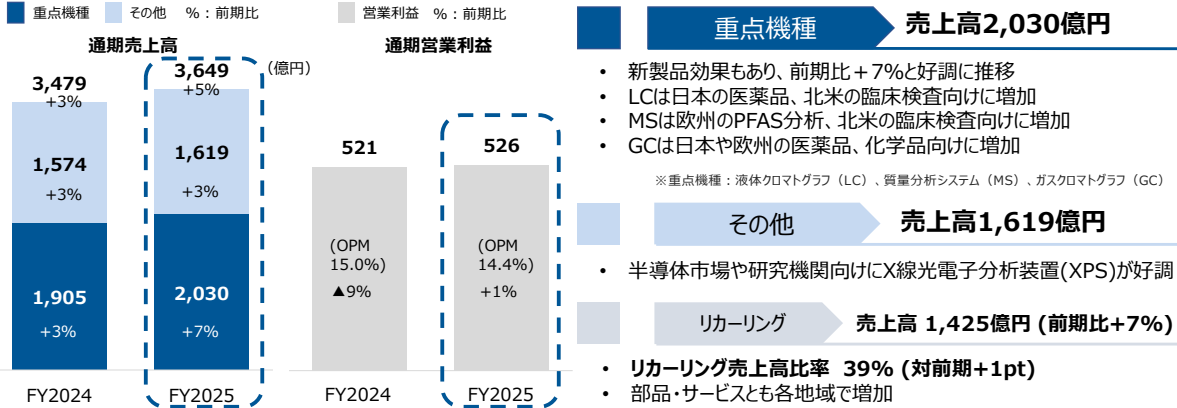
※GCMS : ガスクロマトグラフ質量分析システム

計測機器事業

【増収増益】 売上高は6期連続で過去最高を更新

■ 売上高：重点機種、その他機種ともに過去最高を更新

■ 営業利益：M&A関連費用、研究開発費などが増加したが、増収効果により増益。営業利益率は低下



計測機器についてご説明します。

2025年度は増収増益となり、売上高は6期連続で過去最高を更新しました。

重点機種とその他機種に分けて見ると、重点機種は新製品効果もあり、前年度比7%増と好調に推移しました。

液体クロマトグラフは、日本の医薬品分野と北米の臨床検査向けで増加しています。質量分析システムは、欧州のPFAS分析向けと北米の臨床検査向けで増加しました。ガスクロマトグラフも新製品の投入効果があり、日本や 欧州の医薬品、化学品向けで増えています。

重点機種以外の機種についても、全体としては過去最高を更新しています。特に、半導体市場や研究機関向けのXPS（※）が好調でした。

リカーリングについても拡大しています。部品とサービスは各地域で増加 しており、サービスについては、北米でマルチベンダーサービス会社を買収した効果も出てきています。結果として、リカーリング売上高比率は39%となり、前年度比で1ポイント上昇しました。

一方で、利益率については、M&A関連費用や研究開発費の増加などがあり、低下しています。今後は、新製品比率の上昇、付加価値訴求、リカーリング拡大を通じて、収益性改善を進めていきます。

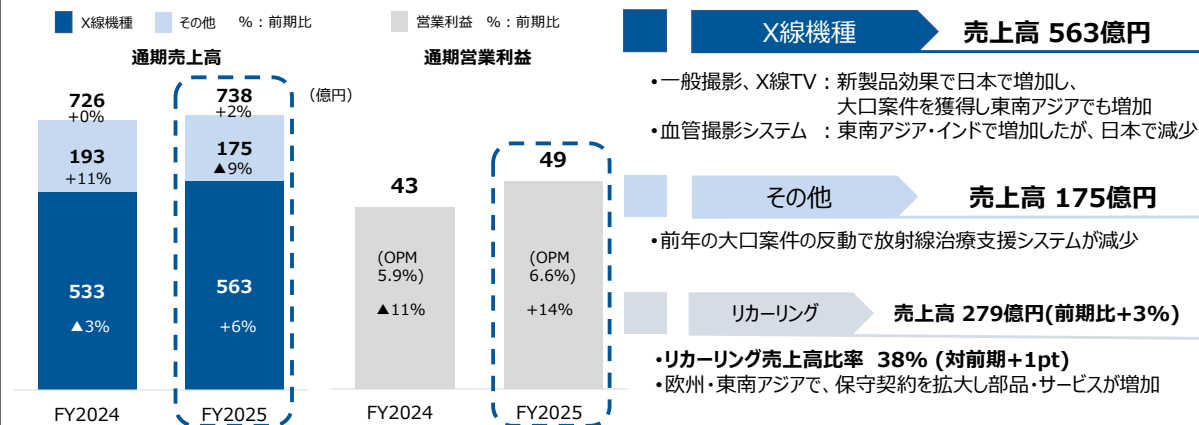
※XPS：X線光電子分析装置

医用機器事業

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

【増収増益】売上高はX線機種を中心に増加

- 売上高：日本・欧州では医療費抑制の影響もあり低調だったが、東南アジアでX線機種が大きく増加
- 営業利益：新製品効果による増収、プロダクトミックス良化、リカーリング強化により増益



- X線機種 売上高 563億円**
 - 一般撮影、X線TV：新製品効果で日本で増加し、大口案件を獲得し東南アジアでも増加
 - 血管撮影システム：東南アジア・インドで増加したが、日本で減少
- その他 売上高 175億円**
 - 前年の大口案件の反動で放射線治療支援システムが減少
- リカーリング 売上高 279億円(前期比+3%)**
 - リカーリング売上高比率 **38% (対前期+1pt)**
 - 欧州・東南アジアで、保守契約を拡大し部品・サービスが増加

SHIMADZU

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2026年3月期通期決算説明会

8

医用機器についてご説明します。

2025年度は増収増益となりました。

日本の病院経営は引き続き厳しい状況ですが、当社は市場納入台数が比較的多いこともあり、新製品のX線テレビシステムが日本でかなり多数採用されました。また、東南アジアでも、一般撮影システムとX線テレビシステムが増加しています。注力している血管撮影システムは、東南アジアとインドで増えました。一方で、高額機器であることから、日本では病院の導入が進みにくく、減少しました。それでも、X線機種全体では6%の増加となっています。

その他の機種は9%減となりました。これは前年度の大口案件の反動などによるものですが、採算性も高くないため、今後はこの装置群を見直していく方針です。

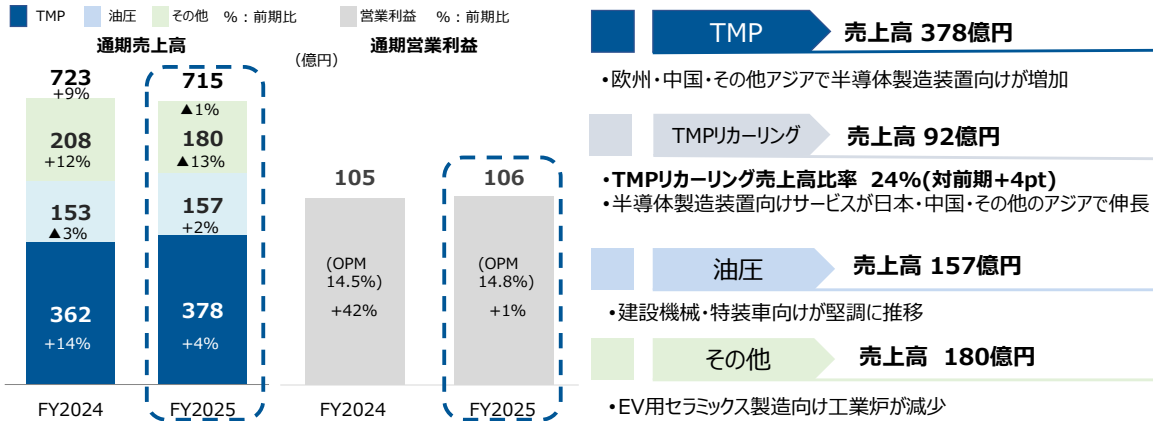
リカーリングについては、特に東南アジアで保守契約が大きく増えており、売上高比率は1ポイント上昇しました。

今後は、特長のある製品の拡販とリカーリング強化に加え、不採算機種の見直しを通じて、利益率の改善を重視していきます。

産業機器事業

【減収増益】 営業利益は過去最高、TMPのリカーリング売上高比率は24%と対前期+4pt伸長

- 売上高：TMPが好調、油圧機器も増加。一方で、その他の工業炉が大きく減少
- 営業利益：減収による利益減を、TMPのリカーリング事業拡大による粗利率改善により補って増益



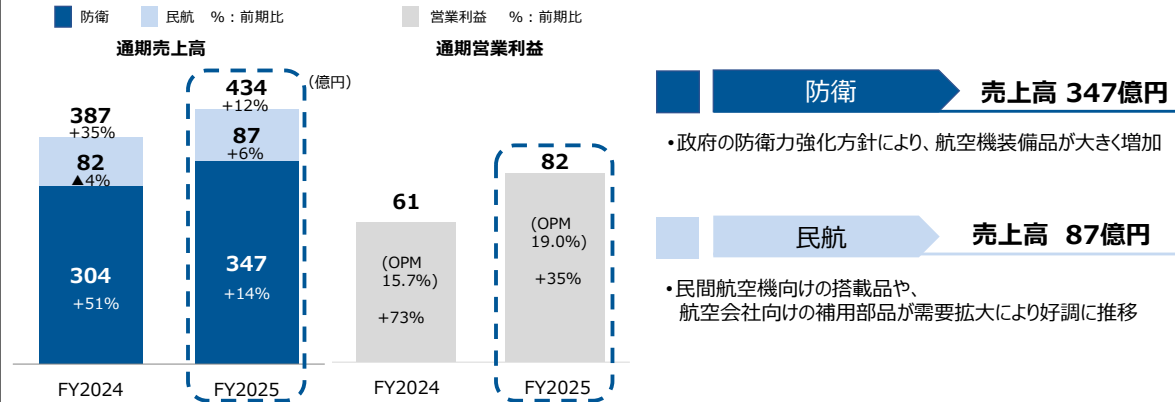
産業機器についてご説明します。

2025年度は減収増益となり、営業利益は106億円と過去最高を更新しました。主力のターボ分子ポンプは、半導体製造装置メーカー向けが堅調に増加しており、欧州、中国、その他アジアでしっかり伸びています。日本ではお客様の在庫調整もあり、増やすことができませんでした。全体では増収となりました。特に、ターボ分子ポンプのサービス事業を強化しており、日本、台湾、韓国に加え、中国で大きく伸びました。その結果、TMPのリカーリング売上高比率は24%となり、前年度比で4ポイント上昇しています。油圧機器は157億円で、2%増となりました。日本ではフォークリフトや 特装車などが堅調に推移しましたが、北米は非常に厳しく、大きく落としています。その他の分野では、工業炉やヘリウムリークディテクターといった装置が 減少し、全体では13%減となりました。今後も、半導体向けTMPの拡販とサービス強化を中心に、収益性の高い事業運営を進めていきます。

航空機器事業

【増収増益】 売上高は2期連続、営業利益は3期連続で過去最高を更新

- 売上高：防衛市場向け装備品が大幅に増加
民間航空機向けも搭載品・補用品とも需要が拡大し増加
- 営業利益：増収効果に加え、粗利率改善により大幅増益



SHIMADZU

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2026年3月期通期決算説明会

10

航空機器についてご説明します。

2025年度は増収増益となり、売上高は2期連続、営業利益は3期連続で過去最高を更新しました。

防衛分野では、日本の防衛力強化方針を背景に、航空機装備品が大きく増加しています。ただし、いつまでも同じペースで続くわけではなく、今年度あるいは来年度に向けては、次の手を考えていく必要があると見ています。

民間航空機分野では、旅客需要の増加を背景に、民間航空機向け搭載品や、航空会社向けの補用部品が好調に推移しました。

営業利益率は19.0%と大きく伸びていますが、ここには為替などさまざまな要因が含まれており、少し特殊要因的に伸びた面があると考えています。

そのため、今後は防衛と民間航空機の双方で需要を取り込みつつも、前年の高い利益率をそのまま前提にするのではなく、より平準化した前提で見えていきます。

02 2026年度通期業績予想

2026年度通期業績予想

- 中東情勢悪化影響と成長投資増を増収・価値訴求で跳ね返して増収増益を見込む
- TESCO社業績は、クロージング前のため織り込まず
- 売上高 5,750億円（対前期+143億円）為替▲20億円、中東影響 ▲100億円を織り込む
- 営業利益 760億円（対前期+ 23億円）為替▲7億円、中東影響 ▲40億円を織り込む

売上高	5,750 億円	対前期	+143 億円	+ 3 %
営業利益	760 億円	対前期	+ 23 億円	+ 3 %
経常利益	750 億円	対前期	▲ 78 億円	▲ 9 %
当期純利益	550 億円	対前期	▲ 55 億円	▲ 9 %

通期想定為替レート

米ドル：150円
ユーロ：175円

研究開発費

対前期
305 億円 **+14** 億円

設備投資

対前期
250 億円 **+29** 億円

減価償却

対前期
200 億円 **▲4** 億円

2026年度の通期業績予想についてご説明します。

中東情勢の悪化については、現時点では6月頃まで継続すると想定し、売上高、営業利益などへの影響を織り込んでいます。

加えて、成長投資については今後も増やしていく考えです。しかし、その分は売上増加や価値訴求によって跳ね返し、増収増益を目指す計画です。

なお、昨年12月に買収を発表したチェコの電子顕微鏡会社TESCANについては、まだクロージングに至っていないため、この予想には織り込んでいません。フランスによる外国投資審査が想定より長引いている状況です。

業績予想の数字としては、売上高5,750億円、前年度比143億円の3%増、営業利益760億円、前年度比23億円の3%増を見込んでいます。

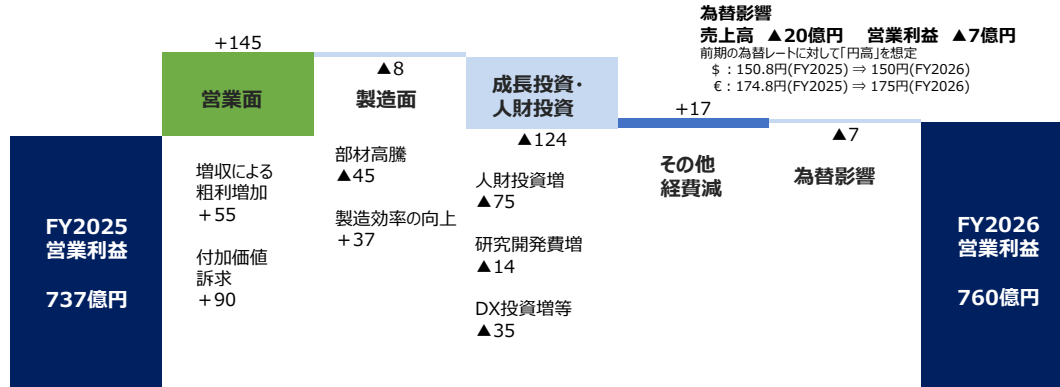
経常利益は750億円、当期純利益は550億円としていますが、これは前年度にあったような為替差益を見込んでいないためであり、通常状態への回帰という見方です。

想定為替レートは米ドル150円、ユーロ175円です。

研究開発費は305億円で14億円増、設備投資は250億円で29億円増、減価償却費は200億円で4億円減を計画しています。

2026年度通期営業利益予想

- 為替変動および中東情勢の悪化影響を織り込み760億円を予想
- 営業面では、増収に伴う増益と付加価値訴求により利益増の見込み
- 製造面では、製造効率向上を部材価格高騰が上回り、利益減の見込み
- 研究開発費・DX投資などの成長投資と人財投資が増加する見込み



営業利益予想の考え方についてご説明します。

現在の当社の課題は収益性にあり、ここ数年、営業利益率が下がってきていることを大きな課題と認識しています。そのため、このスライドでは営業利益の改善策を明確にお示ししています。

2025年度の営業利益737億円に対し、2026年度は760億円を見込んでいます。営業面では、増収に伴う粗利増55億円に加え、付加価値訴求で90億円を見込み、合計145億円の増益要因としています。

ここで重要なのは、新製品を多く投入してきたことです。新製品による付加価値訴求に加え、従来品やリカーリングについても付加価値訴求を進めることで、利益面を押し上げていく考えです。

一方、製造面では、部材高騰や中東問題に伴う影響がすでに一部で出始めていますが、製造効率向上により最小限に抑え、全体では8億円の減益要因と見ています。成長投資・人財投資については124億円の減益要因を見込んでいます。人財投資では、日本で定年延長による人員増が続く一方、海外では不採算会社の整理なども進めます。

研究開発費は14億円増やす予定です。これは当社の心臓部であり、引き続き積極的に投資します。DX投資についても増やしていきます。これはシステムを強化するための投資です。

その他経費は一部増加を見込みますが、為替影響も含めたうえで、営業利益760億円という予想にしています。

2026年度通期セグメント別業績予想

- 計測：中東情勢悪化（売上▲60億円、利益▲25億円）も、新製品拡販と好調市場深耕、リカーリング拡大で増収増益
- 医用：特長ある製品の拡販、リカーリング事業の強化・拡大により営業利益率向上を目指す
- 産業：中東情勢悪化（売上▲35億円、利益▲15億円）も、半導体向けTMPの拡販とリカーリング強化に努める
- 航空：サプライチェーン上の課題解決により売上高増加も、利益は前年の為替精算の反動減で減少

単位：億円	売上高				営業利益				営業利益率		
	FY2025	FY2026 予想	増減額	増減率	FY2025	FY2026 予想	増減額	増減率	FY2025	FY2026 予想	前期比 増減
計測機器	3,649	3,850	+201	+6%	526	615	+89	+17%	14.4%	16.0%	+1.6pt
医用機器	738	700	▲38	▲5%	49	55	+6	+13%	6.6%	7.9%	+1.3pt
産業機器	715	705	▲10	▲1%	106	100	▲6	▲6%	14.8%	14.2%	▲0.6pt
航空機器	434	440	+6	+1%	82	50	▲32	▲39%	19.0%	11.4%	▲7.6pt
その他	71	55	▲16	▲23%	12	15	+3	+27%	12.4%	20.5%	+8.1pt
調整額	-	-	-	-	▲37	▲75	▲38	-	-	-	-
合計	5,607	5,750	+143	+3%	737	760	+23	+3%	13.1%	13.2%	+0.1pt

セグメント別の業績予想についてご説明します。

まず計測機器は、売上高3,850億円、営業利益615億円を見込み、営業利益率は16.0%まで引き上げる計画です。売上高として約200億円積み上げ、利益率も大きく改善させる計画であり、ここが一番の課題であり、大きな挑戦になります。

この利益率改善には、プライシング戦略を積極的に進める必要があります、すでに具体策に着手しています。

医用機器については、売上高は700億円と減収を見込んでいますが、これは不採算機種の見直しを織り込んでいるためです。売上は落ちても利益率は上げていく計画です。

産業機器については、半導体関連は好調を見込んでいますが、中東情勢悪化により、お客様が部材調達に苦しむ可能性を想定しており、その分を慎重に見積もっています。結果として、売上はやや減少する見通しです。

航空機器については、売上は増える見込みですが、利益は少し落ちる予想にしています。営業利益率は11.4%としています。前年度の19%という水準は特殊要因も含んでいたと考えており、今年度は保守的に見えています。

全社合計では、売上高5,750億円、営業利益760億円、営業利益率13.2%を見込んでいます。

03 業績予想達成に向けて

市場環境 地域別/事業別/業界別①

各地域で、動きのある市場でお客様と共に成長。特に、新製品を核にトータルソリューションを提案

地域	動きのある市場
日本 YoY+ 1~3%	<ul style="list-style-type: none"> ■総括：計測機器需要は底堅く、半導体市場も好況。一方で医用機器や産業機器の半導体以外の市況は低調 ■計測： <ul style="list-style-type: none"> ・補正予算で官公庁/大学市場が動く ・ジェネリック医薬市場の投資も活発化 ・半導体関連市場で投資が継続 ■医用：病院経営は厳しいものの、効率化・働き方改革へは投資増 ■産業：半導体製造装置の大幅増産を期待 <ul style="list-style-type: none"> ・上水のPFAS規制により検査機関の投資増 ・電池関連は開発投資継続と予想
北米 YoY+ 4~6%	<ul style="list-style-type: none"> ■総括：官公庁/大学市場は引き続き停滞が見込まれる。民需は設備投資・開発投資に積極的な市場も見られる ■計測： <ul style="list-style-type: none"> ・医薬市場は徐々に回復 ・臨床市場は効率化投資が継続 ・電池関連は開発・製造投資継続 ■産業：半導体製造装置の大幅増産を期待 <ul style="list-style-type: none"> ・上水のPFAS規制による投資に期待 ・半導体関連市場で投資継続
欧州 YoY+ 4~6%	<ul style="list-style-type: none"> ■総括：臨床市場を中心に計測機器需要は底堅い。半導体関連も好調 ■計測： <ul style="list-style-type: none"> ・官公庁/大学市場は徐々に回復 ・臨床市場が引き続き好調 ■産業：半導体製造装置の大幅増産を期待 <ul style="list-style-type: none"> ・PFAS規制による投資が継続 ・半導体関連市場は投資が維持

* 記載の伸び率は、連結の売上高対前年伸び率見込み（為替除く）

ここからは、この業績予想を達成するための前提となる市場環境について ご説明します。

当社としては、各地域で一律に伸ばすのではなく、動きのある市場、そして投資をされるお客様と一緒に成長していくことを基本方針としています。

まず日本ですが、総括として、計測機器需要は底堅く、半導体市場も好況が続くと見えています。計測機器では、補正予算を背景に官公庁・大学市場が動くこと、ジェネリック医薬市場の投資活発化、上水のPFAS規制に伴う検査機関の投資増、電池関連の開発投資継続などを見込んでいます。半導体関連市場でも投資継続を期待しています。

一方で、化学のお客様の中には投資凍結の動きもあり、少し予断を許さない状況もあります。

医用機器では、病院経営は厳しいものの、効率化や働き方改革に向けた投資は増える見えています。産業機器では、半導体製造装置の大幅増産を期待しています。北米については、官公庁・大学市場は引き続き厳しいと見えますが、民需では設備投資、開発投資に積極的な市場が出てきています。医薬市場は徐々に回復しつつあり、臨床市場では効率化投資が継続しています。北米R&D センターで開発した製品群が、こうした需要に合致している状況です。

また、上水のPFAS規制、半導体関連、電池のうち定置型蓄電分野などでも投資継続を見込んでいます。

欧州についても、臨床市場を中心に計測機器需要は底堅く、半導体関連も 好調と見えています。官公庁・大学市場の回復、PFAS規制に伴う投資継続、臨床市場の好調、半導体市場の投資維持などを想定しています。

展開する主な新製品とソリューション

・ヘルスケア領域：ライフサイエンス市場

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

I ベストセラーモデルの後継機

NEW

一体型液体クロマトグラフ
i-Series LC-2070/2080



品質管理のお客様に
新たなワークフローを

“Analytical Intelligence”

- ・熟練技術者のように働き、
- ・装置とデータの良否を自動判定し、
- ・最適状態での分析をお届けする

“Sustainability in Separation”



- ・95%以上の消費電力削減
- ・ランニングコストの低減
- ・サステナブル素材の採用
- ・梱包材の最適化

4万台以上の納入品の
更新需要と新規需要に

II フラッグシップモデル

NEW

超高速液体クロマトグラフ
Nexera X4



研究開発現場に
微量・高速・高分離を

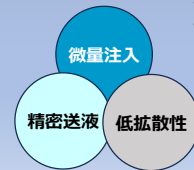
新たな分析体験

“Ultra-FAST Analysis”

- ・低拡散でシャープなピーク
- ・分析時間は従来比1/3に

“Ultra-Low Solvent Consumption”

- ・微量サンプル対応
- ・溶媒使用量 1/9に

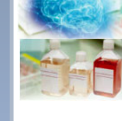


研究開発の
最適パートナー

III AIで届ける、あなただけの培地

NEW

AIカスタム培地開発サービス
MediTune



培地開発のワークフローを変革

“抗体医薬品や遺伝子治療薬の
原薬製造用カスタム培地を提供”

- ・高性能AIが培地組成を最適化
→ 試行回数を半減
- ・GMP準拠のカスタム培地を提供

IV 分析天びんのパイオニアとして

NEW



分析天びん
「AP W-AD ex」他8機種

最小計量値13mg

“薬局方に基づくクラス最高精度”と
“安心安全なワークフロー”の実現

- ・スマートオートドア™ 機能搭載
→ 両手を使って持ったまま作業
- ・タッチレスセンサ搭載
→ 装置に触れずに計量作業

SHIMADZU

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2026年3月期通期決算説明会

18

ここからは、今後展開する主な新製品とソリューションについてご説明します。当社が価値提供を行う領域としては、ヘルスケア、グリーン・マテリアル、インダストリーがありますが、まずはヘルスケア領域のライフサイエンス市場です。このスライドでは、一体型液体クロマトグラフ i-Series LC-2070/2080、超高速液体クロマトグラフ Nexera X4、AIカスタム培地開発サービス MediTune、分析天びん AP W-AD ex などをご紹介します。

i-Seriesは、当社で4万5,000台以上を納入してきたベストセラーモデルの後継機です。既存設置分の更新需要に加え、これから工場新設が進むアジアなどでの新規需要も取り込んでいきたいと考えています。

Nexera X4は、当社のフラッグシップモデルであり、従来にない低拡散でシャープなピークを実現し、分析時間を3分の1にまで短縮するなど、微量サンプルを高速・高分離で分析できる製品群です。研究開発や質量分析システムのフロントエンドとしての最適パートナーだと考えています。

MediTuneについては、島津ダイアグノスティクスの培地をベースに、当社の製品群とスタートアップとの協力、AI活用を組み合わせ、最適な培地を提供するサービスです。これにより新たなお客様開拓につなげたいと考えています。

分析天びんについても、薬局方に基づくクラス最高精度の製品を投入しています。このように、ライフサイエンス市場に対しては、単体製品ではなく、研究開発、品質管理、培地開発などを含めた広い価値提供を進めていきます。

展開する主な新製品とソリューション
ヘルスケア領域：メドテック市場・分子診断

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

I 臨床検査専用 LCMSシステム

NEW 高速液体クロマトグラフィ分析装置
Nexera CL LCMS システム

臨床検査分野に
新たなワークフローを

“信頼性、再現性の高い検査”

- 多成分同時分析による高速検査
- 抗体間の交差反応のない安心・精密な検査

II 臨床検査装置 サブスクリプションサービス

NEW 高速液体クロマトグラフィ分析装置
Nexera CL LCMS システム

日本の臨床検査市場に
新たな可能性を

“信頼性、再現性の高い検査”

- 世界の先端検査を日本に
- 精密分析を低い初期コストで
- 医療機関での研究支援も

III 北米R&Dセンター開発品を世界に

NEW 多検体処理用途LCMSシステム
Nexera QX

分析ラボに
新たなワークフローを

“ラボの生産性を最大化する
革新ソリューション”

- 最優秀分離科学イノベーション賞受賞
- 質量分析計の稼働効率を大幅に向上
- 生産性・自動化・運用の強靭性に貢献

IV LCMS用免疫抑制剤分析キット

NEW DOSIMMUNE

患者さんの
命と健康に貢献

“信頼性、再現性の高い検査”

- 当社LCMS+自動化ユニット用検査試薬
- 内部標準を含め必要が揃った分析キット
- 欧州IVDRクラスC認証取得品
- 迅速に正確な結果を、安定供給

V 臨床検査用全自動前処理装置

臨床検査用 LCMS サブスクリプション 検体前処理装置
CLAM-2030CL

検査試薬

臨床検査ワークフローのソリューション

VI 感染症対策分野での戦略製品

NEW MALDI-TOFMS用
微生物同定ソフトウェア
MicrobialTrack

微生物の検査・研究に
新たなソリューションを

“微生物同定に革新を”

- 微生物8万5千種を網羅する
業界最大のデータベース

SHIMADZU
Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2026年3月期通期決算説明会
19

次に、ヘルスケア領域のうち、メドテック市場・分子診断についてご説明します。

このスライドでは、臨床検査専用LCMSシステム（※）、臨床検査装置の サブスクリプションサービス、多検体処理用途のLCMSシステム Nexera QX、LCMS用免疫抑制剤分析キット DOSIMMUNE、臨床検査用全自動前処理装置 CLAM-2030CL、MALDI-TOFMS用微生物同定ソフトウェア MicrobialTrack などをご紹介します。

当社は分子診断分野に力を入れており、臨床検査用の質量分析システムについては、日本でサブスクリプション型の提供も進めています。

また、検査試薬についても順次拡張していく方針です。

このスライドにある1、2、4の製品群に加え、自動化や全自動前処理装置を組み合わせることで、臨床検査のワークフロー全体のソリューションを提供していきたいと考えています。

加えて、北米R&Dセンターで開発した臨床向けの多検体処理用システムや、感染症対策分野での戦略製品も展開していく考えです。

当社としては、単に装置を売るのではなく、信頼性、再現性、生産性を含めて、臨床検査の現場に新しいワークフローを提供していきます。

※LCMS：高速液体クロマトグラフ質量分析システム

展開する主な新製品とソリューション

・ヘルスケア領域：メドテック市場・画像診断

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

I 回診用X線撮影装置のフラッグシップモデル

回診用X線撮影装置

MobileDaRt Evolution MX9 Version

撮影業務フローの高度化へ

“イメージングトランスフォーメーション”で
医療者と患者のウェルビーイングに貢献

- ・手元モニターで操作が簡単・安心 → セカンドモニタ搭載
- ・位置決めカメラで撮影が簡単・安心 → VISION SUPPORT



II 光学カメラ搭載X線一般撮影システム

X線一般撮影システム

RADspeed Pro SR5 Version

撮影業務フローを改善
効率化と安心に貢献

“イメージングトランスフォーメーション”で
医療者と患者のウェルビーイングに貢献

- ・カメラ画像で正確に簡単撮影 → VISION SUPPORT
- ・手元で撮影位置を簡単設定 → オートポジショニング



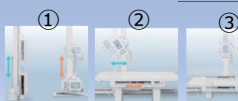
III オートトラッキング機能付X線撮影システム



床上走行式X線一般撮影システム
RADspeed Pro XF type

効率化と安心に貢献

“オートトラッキング機能で簡単・安心操作を”



- ① X線発生器と立位撮影台の高さが連動
- ② X線発生器と臥位撮影台の位置が連動
- ③ X線発生器と撮影台の高さが連動

IV 多目的治療対応 血管撮影システム

血管撮影システム

Trinias Series with SCORE Opera

検査・治療の高度化と
医療者の負担軽減へ

“ストレスフリーの治療ワークフローを目指して”

- ・治療の際に患者やモニタから視線を外さない操作環境
→ SMART Voice(音声操作機能)
- ・常に最先端に持続的に進化するシステム
→ SCORE Link機能



SHIMADZU

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2026年3月期通期決算説明会

20

続いて、メドテック市場の画像診断分野です。

このスライドでは、回診用X線撮影装置 MobileDaRt Evolution MX9 Version、光学カメラ搭載X線一般撮影システム RADspeed Pro SR5 Version、オートトラッキング機能付X線撮影システム RADspeed Pro XF type、多目的治療対応血管撮影システム Trinias Series with SCORE Opera などを紹介しています。

ここでは、回診装置、一般撮影装置、血管撮影システムといった製品群を拡充しました。

狙いとしては、撮影業務フローの改善、効率化、安心・安全な操作、さらに検査・治療の高度化と医療者負担の軽減です。

これらの製品群を用いて、特にアジアでお客様を開拓していきたいと考えています。

医用機器事業の成長に向けては、こうした特長ある新製品を軸に、販売だけでなく保守・サービスも含めた提案を強化していきます。

展開する主な新製品とソリューション

・グリーン・マテリアル領域：環境分析・GX市場

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

<p>I PFAS分析市場への戦略製品 高速液体クロマトグラフ質量分析システム LCMS-8065XE</p> <p>環境分析</p> <p>“StreamFocus” ・高効率でイオンを取り込み、高感度に “パフォーマンス・コンシールド” ・装置の状態を自動診断 ・「エコシールドモード」で消費電力3割削減</p>	<p>II 法規制に基づく水質検査装置 イオンクロマトグラフ Nexera IC</p> <p>試料調製、分析、データ解析 までのワークフローを効率化</p> <p>“Streamlined Automation” ・独自の自動化機能 ・試料調製から解析まで全ワークフローを効率化 ・新AI機能により、ダウンタイムを減少</p>	<p>III マイクロプラスチック向け 粒子解析システム</p> <p>マイクロプラスチック研究の進化に貢献</p> <p>“世界初の質量・体積の自動解析機能” ・個数・面積・体積・質量・成分を短時間で算出 ・高速マッピング ・スペクトルアドバイザー機能</p> <p><small>*技術指導：愛媛大学片岡智哉准教授</small></p>
<p>I 世界最高感度の標準モデル ガスクロマトグラフ Nexis GC-2060</p> <p>G X 市場</p> <p>高速処理に加え、高感度・ 安定性でワークフローを変革</p> <p>“開発70年の集大成モデル” ・5つの注入モードで効率向上、待ち時間も1/8に ・5つの検出器動作モードが、ラボ環境に適合 ・最高感度の検出器搭載で微量分析を高速分析 ・自動工口運転で省エネ(電気・ガス削減)を提案</p>	<p>II 微量ガス分析の最新鋭機 新型ガスクロマトグラフ FluxEdge GC Systems</p> <p>脱炭素研究の進化を後押し</p> <p>“微細化と不活性化技術で GC用バルブを革新” ・数mLの微量サンプル分析 ・従来比約1/3の短時間分析 ・高再現性、低キャリアオーバー</p>	<p>III EV用部品・電池材・リサイクル樹脂の スタンダードモデル 精密万能試験機 オートグラフ AGS-Vシリーズ</p> <p>「高い試験効率」「優れた操作性」 「最高の安全性」をお客様に</p> <p>“100年を超える技術を注ぎ込んだ インテリジェント制御と音声操作” ・従来比5倍の高分解能測定 ・従来比2倍の測定範囲 ・接触・衝突検知時停止機能</p>

SHIMADZU

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2026年3月期通期決算説明会

21

次に、グリーン・マテリアル領域のうち、環境分析・GX市場です。
このスライドでは、PFAS分析市場向け的高速液体クロマトグラフ質量分析システム LCMS-8065XE、法規制に基づく水質検査向けイオンクロマトグラフ Nexera IC、マイクロプラスチック向け粒子解析システム、ガスクロマトグラフ Nexis GC-2060、FluxEdge GC Systems、精密万能試験機 オートグラフ AGS-V シリーズなどをご紹介します。

環境分析では、PFASや水、プラスチックといった分野で新しい製品群を通じて価値提供していきたいと考えています。

これらの製品群に共通するポイントは、お客様のワークフローを効率化する、あるいは変革することを狙って開発してきた点です。

GXの分野では、特にシステムガスクロが重要です。グリーントランスフォーメーションの流れの中で、水素やアンモニアなどさまざまなガスを分析する必要がありますが、その際にオンラインで測定していただける製品を展開しています。半導体の技術も使い、超微量サンプルを小さなバルブでコントロールして測定するような最新製品も発売しています。

また、リサイクル樹脂、電池材料、EV用部品などの評価装置も投入しており、環境・GX市場に対して広い形で価値提供していきます。

I X線装置のパイオニアとして



NEW 産業用マイクロフォーカスX線CTシステム
inspeXio 7000

低密度材料の画像解析も可能に

“新開発の発生源で軟X線成分を増加”
“超高速演算システムHPCinspeXio”

- 前モデル50倍の高速演算
- どこでも3次元拡大再構成機能
- Φ400mm高さ300mm 重さ20kgまで対応

II 窒素ガス環境でも静電気除去



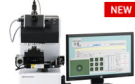
NEW 卓上コロナ放電式イオナイザ
STABLO-AP-N2

正確な計量で電池研究に貢献

“窒素ガス環境に特化したイオナイザ”

- 世界初の窒素ガス環境下コロナ放電式
- 信頼性の高い天びん計量が可能
- 安定したイオンバランスも実現

III ミクロン径粒子の材料評価システム



NEW 微小圧縮試験機
MCT-210AD

電池材料開発に貢献

“多粒子連続自動試験を実現”

- 電極活性物質や全固体電池、導電性粒子、電子部品スペーサなどの測定に
- 適合順にリスト化して自動で測定
- 測定後のサンプル残骸の清掃も自動化

IV 電池材料の表面観察



NEW 走査電子顕微鏡
SUPERSCANシリーズ
* チェコTESCAN社との共同ブランド

圧倒的な使いやすさで観察・
分析のワークフローを革新

“表面の微細構造観察に”

- 低加速でビーム広がりを抑えた独自光学系
- 独自技術で光軸・画像を自動調整
- 低真空でもクリアな画像

V 世界最高感度の標準モデル



NEW ガスクロマトグラフ
Nexis GC-2060

高感度・直線性・安定性
でワークフローを革新

“材料評価や劣化解析に”

- 5つの注入モードで効率向上、待ち時間も1/8に
- 5つの検出器動作モードが、ラボ環境に適合
- 最高感度の検出器搭載で微量分析を高速分析
- 自動工口運転で省エネ(電気・ガス削減)を提案

VI 類なき高感度の蛍光X線分析装置



NEW エネルギー分散型蛍光X線分析装置
ALTRACE

限界を超越した高感度で
新しいステージに

“ブラックマス・正極材料・リサイクル品の分析に”

- 煩雑な前処理から解放
- 溶液化が難しい試料もそのまま分析可能
- 最大48種試料の連続自動分析

続いて、電池市場向けの取り組みです。

このスライドでは、産業用マイクロフォーカスX線CTシステム inspeXio 7000、卓上コロナ放電式イオナイザ STABLO-AP-N2、微小圧縮試験機 MCT-210AD、走査電子顕微鏡 SUPERSCANシリーズ、ガスクロマトグラフ Nexis GC-2060、エネルギー分散型蛍光X線分析装置 ALTRACE などを紹介しています。

電池の市場関係でも、当社は複数の製品を発売しています。

特に、チェコのTESCANの製品については、日本で代理店としてすでに販売しており、これも活用しながら、電池材料の各種評価を進めていきたいと考えています。

当社としては、電池市場においても、材料開発、計量、表面観察、分析、評価まで、多面的にお客様を支えていく方針です。

・インダストリー領域：半導体市場

I ナノ領域の表面観察を強化



NEW
走査電子顕微鏡
SUPERSCAN シリーズ
* チェコTESCAN社との共同ブランド

圧倒的な使いやすさで観察・
分析のワークフローを革新

“低倍率から高倍率までシームレスな観察”

- Wide Field Optics™技術で2倍～百万倍
- 独自技術で光軸・画像を自動調整
- 豊富な分析器追加に対応した大型チャンバー

II 高感度の超純水モニタリング



NEW
オンラインTOC計
TOC-1000e S

尿素も検出する高感度で
歩留まり対策に貢献

“高感度・高応答でモニタリングを”

- 世界最小・最軽量クラス
- 有機物量1µg/L以下まで安定測定
- 洗浄基準に応え、歩留まり改善に

III 拡大する半導体製造装置需要対応



磁気軸受型
ターボ分子ポンプ
*ターボ分子ポンプ=TMP

顧客密着型事業スタイルを強化
第一に選択されるTMPに

“半導体製造装置向けTMP
ダントツNo1”

- 2拠点体制の更なる強化に向け、京都、
秦野(神奈川県)を増強。新たな拠点も
探索
- サービス拠点のグローバル展開を強化
(欧州、台湾を追加拠点設立)
- TMPのアップグレード提案を推進

IV 半導体市場で複雑化する課題解決に

環境
負荷
低減



- 超純水用オンライン用TOC計と
連動して、中国で販売拡大
- 他の地域へ展開を推進



NEW
PFAS分析 液体クロマトグラフ
質量分析システム LCMS-8065XE

- PFAS分析を含めた
排水管理などで
環境負荷低減

AMC
分析



ガスクロマトグラフ質量分析システム
GCMS-QP2050

- 微細な汚染物質Airborne Molecular Contaminants
(AMC) の適切な管理は製造プロセスの歩留まり改善に重要
- エンジニアリング会社との協業を強化し、質量分析システムを展開

“半導体市場の課題解決に向けてへ多面的アプローチを推進”

最後に、インダストリー領域の半導体市場についてご説明します。

このスライドでは、走査電子顕微鏡 SUPERSCANシリーズ、オンラインTOC計 TOC-1000e S、磁気軸受型ターボ分子ポンプ、PFAS分析用LCMS-8065XE、AMC分析用GCMS-QP2050などをご紹介します。

当社は、半導体市場に対して、右側にあるターボ分子ポンプだけでなく、サービスも強化し、お客様サポート能力を高めていきます。

TMPでは、欧州、台湾へのサービス拠点追加、アップグレード提案の推進、製造拠点としては、京都・秦野（神奈川）の増強、今後は新拠点の探索などにより、顧客密着型の事業スタイルを強化していく考えです。

加えて、水関係では、半導体分野で現在大きな課題となっている尿素も検出できる超純水モニタリング装置を提供していきます。

また、他社と協働しながら、ガス分析をオンラインでできるシステムも進めています。

さらに、チェコのTESCANの表面観察技術も組み合わせ、半導体市場に対して総合的なソリューションを提供していきたいと考えています。

計測機器/収益性向上策

- 新製品を核としたソリューション展開、リカーリング事業の拡大と製造コストの削減

主な施策/新製品を核としたソリューション展開 →既報

主な施策/リカーリング売上高の拡大

- サービス：
 - ・修理・保守サービスで高付加価値商品を拡充して付加価値訴求を促進
 - ・Zef社との連携によるマルチベンダーサービス（MVS）提案力向上と競合更新需要取り込み
 - ・試験機の海外校正ビジネス拡大
- 試薬・消耗品：
 - ・ASEAN地域でワイエムシ社の消耗品をOEM販売開始するなど、消耗品ラインナップを拡大
 - ・自社製消耗品ラインナップ強化の検討継続

主な施策/収益性改善

- 製造面でのコストダウン：自動化などを活用した製造面でのコストダウンを実施
- 経費のコントロール：事業拡大に必要な成長投資は実施するものの、管理可能経費はコントロール

ここでは、計測機器事業で営業利益率16%を実現するための施策をご説明します。

大きな柱は、新製品を核としたソリューション展開、リカーリング売上高の拡大、そして収益性改善です。

まず、新製品を核としたソリューション展開については、すでにご説明した通り、新製品の拡販と市場別提案を進めていきます。

次に、リカーリング売上高の拡大です。サービスでは、修理・保守サービスで高付加価値商品を拡充し、付加価値訴求を進めます。Zef社との連携によるマルチベンダーサービスの提案力向上、競合更新需要の取り込み、試験機の海外校正ビジネス拡大なども進めます。

試薬・消耗品では、ASEAN地域でワイエムシ社の消耗品をOEM販売開始するなど、消耗品ラインアップを拡大します。自社製消耗品ラインアップ強化の検討も継続します。

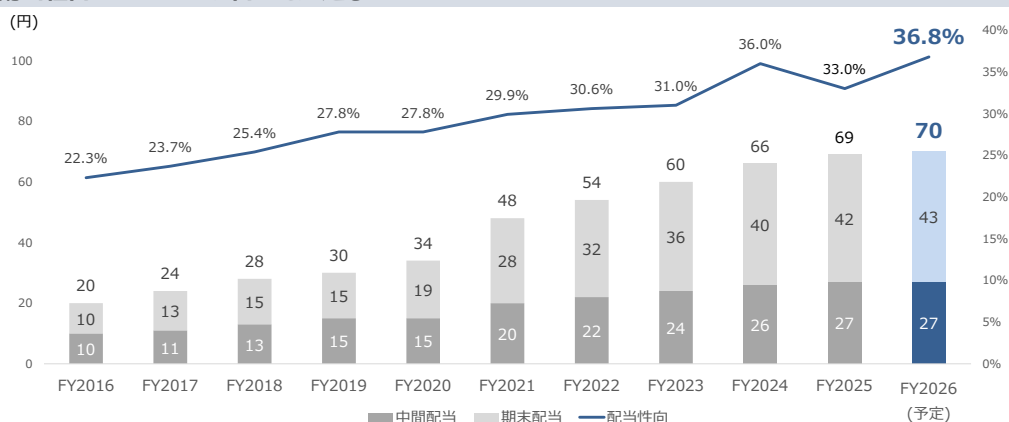
収益性改善の面では、自動化などを活用した製造面でのコストダウンを進め、経費についても、事業拡大に必要な成長投資は行いながら、管理可能経費はしっかりコントロールしていきます。

これらの施策を通じて、計測機器事業の利益率を引き上げていく計画です。

株主還元

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 配当金 : FY2025 年間配当は期初想定比3円、前年比3円増配の69円
FY2026 13期連続増配となる1株当たり70円（中間27円、期末43円）を予定
- 配当性向 : 36.8%に向上を見込む



※FY2024の期末配当金には創業150周年記念配当4円を含む

最後に、株主還元についてご説明します。

2025年度の年間配当は、期初想定比で3円増、前年度比でも3円増となる 69円を予定しています。

前年度の66円には創業150周年記念配当4円が含まれていましたが、それを含めても、さらに3円上積みして69円とする考えです。

2026年度については、1株当たり70円を予定しており、これが実現すれば13期連続増配となります。

配当性向についても、36.8%への向上を見込んでいます。

当社としては、成長投資を継続しながらも、株主還元については着実に強化していく考えです。



 **SHIMADZU**
Excellence in Science

本説明資料に記載の将来の業績に関する内容は、経済情勢・為替・テクノロジーなど様々な外部変動要素により、事前見通しと大きく異なる結果となることがあります。

お問い合わせ先：(株)島津製作所
コーポレート・コミュニケーション部 IRグループ
電話：075-823-1673
E-Mail：ir@group.shimadzu.co.jp

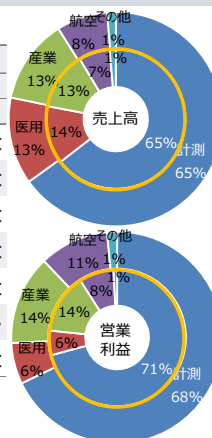
以上で私からのご説明を終了いたします。ご清聴ありがとうございました。

補足資料

セグメント別損益

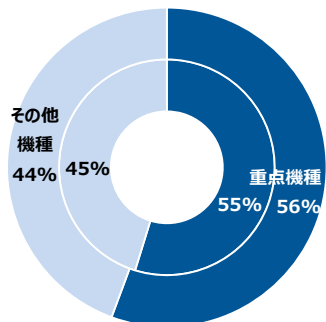
- 売上高は、計測、航空が過去最高。医用も増加
- 営業利益は、産業、航空が過去最高。計測、医用も増加
- 売上高構成比は計測65%、医用13%、産業13%、航空8%

単位:億円	売上高			営業利益			営業利益率	
	FY2025	前期比		FY2025	前期比		FY2025	前期比
		増減額	増減率		増減額	増減率		
計測機器	3,649	+170	+5%	526	+5	+1%	14.4%	▲0.6pt
医用機器	738	+12	+2%	49	+6	+14%	6.6%	+0.7pt
産業機器	715	▲8	▲1%	106	+1	+1%	14.8%	+0.3pt
航空機器	434	+47	+12%	82	+22	+35%	19.0%	+3.3pt
その他	71	▲4	▲6%	12	+6	+87%	12.4%	+6.0pt
調整額	-	-	-	▲37	▲20	-	-	-
合計	5,607	+217	+4%	737	+20	+3%	13.1%	▲0.2pt

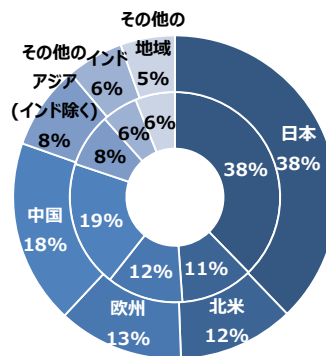


計測機器 / 各種売上高構成比率 (通期)

機種別



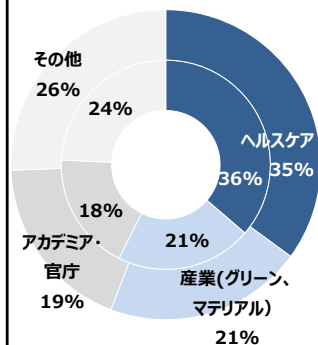
地域別



※円グラフ外側はFY2025実績、内側はFY2024実績を示す

計測機器 / 領域別売上高比率（通期）

市場別売上高構成比

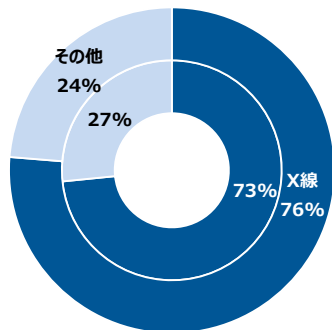


市場と主な業界	構成比		売上高 前期比	概況
	FY2024	FY2025		
ヘルスケア ●医薬品・食品 ●医療機関 ●受託分析業	36%	35%	+1%	・医薬は日本・中国・東南アジア・インドで増加 ・臨床（医療機関）は、北米で増加するも中国・欧州で減少 ・受託分析は中国で減少
産業関連（グリーン、マテリアル） ●化学・素材 ●電機 ●自動車	21%	21%	+3%	・日本で関税影響により自動車関連が減少 ・欧州でGX関連で増加
大学・官公庁	18%	19%	+7%	・北米は引き続き低調 ・欧州は規制関連需要で、中国も政府の経済対策により増加

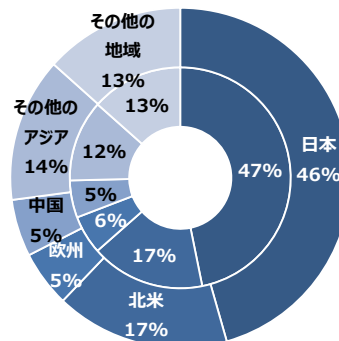
※円グラフ外側はFY2025実績、内側はFY2024実績を示す

医用機器 / 各種売上高構成比率 (通期)

機種別



地域別



※円グラフ外側はFY2025実績、内側はFY2024実績を示す

連結業績 (1-3月)

	単位：億円	第4四半期(1月-3月)		前期比	
		FY2024	FY2025	増減額	増減率
業績	売上高	1,548	1,620	+73	+5%
	営業利益	247	235	▲12	▲5%
	営業利益率	15.9%	14.5%	▲1.5pt	
	経常利益	229	298	+69	+30%
	親会社株主に帰属する当期純利益	176	214	+38	+21%
為替	平均為替レート：米ドル (円)	152.67	156.90	+4.23	+3%
	ユーロ (円)	160.53	183.70	+23.17	+14%
	研究開発費	83	78	▲5	
	設備投資額	58	52	▲6	
	減価償却費	54	52	▲2	

為替影響額

売上高 : **38**億円

営業利益 : **8**億円

セグメント別損益（1-3月）

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

単位:億円	売上高				営業利益				営業利益率		
	FY2024	FY2025	前期比		FY2024	FY2025	前期比		FY2024	FY2025	前期比 増減
			増減額	増減率			増減額	増減率			
計測機器	1,000	1,050	+50	+5%	183	170	▲12	▲7%	18.3%	16.2%	▲2.1pt
医用機器	223	217	▲6	▲3%	26	24	▲2	▲8%	11.7%	11.1%	▲0.6pt
産業機器	189	197	+8	+4%	26	25	▲1	▲4%	13.7%	12.5%	▲1.1pt
航空機器	107	131	+25	+23%	20	23	+3	+12%	18.7%	17.1%	▲1.6pt
その他	29	24	▲5	▲16%	2	4	+2	+113%	5.5%	13.4%	+7.9pt
調整額	-	-	-	-	▲10	▲11	▲1	-	-	-	-
合計	1,548	1,620	+73	+5%	247	235	▲12	▲5%	15.9%	14.5%	▲1.5pt

計測機器 / 重点機種売上高前期比（1-3月）

- 重点機種 LC：日本・中国・インドで医薬向けが増加
MS：欧州で環境規制需要を取り込み増加。日本では官公庁・大学や医薬向けに増加
GC：日本・欧州・中国で新製品が化学向けに増加

為替影響を含む	FY2023					FY2024					FY2025				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
重点機種	+18%	+13%	+12%	▲2%	+10%	+3%	▲2%	+2%	+8%	+3%	+3%	+5%	+7%	+10%	+7%
全体	+16%	+10%	+6%	+2%	+7%	+3%	▲1%	+4%	+4%	+3%	+3%	+6%	+5%	+5%	+5%

為替影響を除く	FY2023					FY2024					FY2025				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
重点機種	+12%	+8%	+7%	▲10%	+4%	▲6%	▲5%	▲0%	+6%	▲1%	+9%	+6%	+5%	+6%	+6%
全体	+11%	+6%	+2%	▲4%	+3%	▲5%	▲3%	+3%	+3%	▲0%	+7%	+7%	+3%	+2%	+5%

※重点機種：液体クロマトグラフ（LC）、質量分析システム（MS）、ガスクロマトグラフ（GC）

計測機器 / 地域別売上高

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

単位 億円	FY 2024	FY 2025	前期比		概況 (通期)	
			増減額	増減率		
日本	通期	1,310	1,380	+70	+5%	<ul style="list-style-type: none"> 医薬・食品向けで液体クロマトグラフや質量分析システムが増加 化学向けで液体クロマトグラフやガスクロマトグラフが増加
	4Q	444	461	+16	+4%	
海外	通期	2,169	2,269	+100	+5%	<ul style="list-style-type: none"> 海外売上高比率は62%(前年比横ばい) 欧州は為替の押し上げ効果もあり12%増と大きく増加
	4Q	556	589	+34	+6%	
北米	通期	390	423	+33	+8%	<ul style="list-style-type: none"> 北米R&Dセンターで顧客と共同開発した質量分析システムが臨床検査市場で増加 マルチベンダーサービス会社 (Zef社) の業績も貢献
	4Q	112	120	+8	+8%	
欧州	通期	409	458	+49	+12%	<ul style="list-style-type: none"> 官公庁・大学向けに液体クロマトグラフや水質検査用途の質量分析システムが増加 化学市場向けでガスクロマトグラフが増加
	4Q	105	120	+15	+14%	
中国	通期	678	673	▲5	▲1%	<ul style="list-style-type: none"> 製薬向けで液体クロマトグラフや質量分析システムが増加 大規模設備投資支援によりアカデミア向け増加
	4Q	151	159	+8	+5%	
その他の アジア (インド除く)	通期	286	309	+22	+8%	<ul style="list-style-type: none"> 東南アジアで医薬や官公庁・大学向けに質量分析システムが増加 韓国で医薬向けに液体クロマトグラフや質量分析システムが増加
	4Q	69	73	+4	+6%	
インド	通期	193	209	+16	+8%	<ul style="list-style-type: none"> 医薬、食品向けで、液体クロマトグラフや質量分析システムが増加
	4Q	52	64	+13	+25%	

計測機器 / 地域別売上高前期比（1-3月）

- 日本：医薬・食品向けでLC、MS、GCが増加。研究用途でX線光電子分析装置が増加
- 海外：インドは医薬・食品向けでLC、MSが大きく増加。中国は医薬向けLC、GCを中心に回復

為替影響を含む	FY2023					FY2024					FY2025				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
日本	+5%	+10%	▲3%	+6%	+5%	+5%	+2%	+12%	▲2%	+3%	+4%	+11%	+3%	+4%	+5%
北米	+1%	+4%	▲4%	+7%	+2%	+13%	+13%	+21%	+11%	+14%	+13%	+4%	+10%	+8%	+8%
欧州	+20%	+27%	+21%	+10%	+19%	+8%	+4%	+3%	+7%	+5%	+2%	+13%	+17%	+14%	+12%
中国	+31%	▲4%	+6%	▲21%	+1%	▲5%	▲19%	▲10%	▲2%	▲9%	▲8%	▲1%	+1%	+5%	▲1%
その他のアジア	+15%	+20%	+20%	+11%	+17%	+4%	+3%	+1%	+13%	+5%	+13%	+5%	+0%	+14%	+8%
インド	+27%	+14%	+32%	+8%	+20%	+20%	+25%	+4%	+24%	+17%	+16%	▲1%	▲5%	+25%	+8%

為替影響を除く	FY2023					FY2024					FY2025				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
日本	+5%	+10%	▲3%	+6%	+5%	+5%	+2%	+12%	▲2%	+3%	+4%	+11%	+3%	+4%	+5%
北米	▲4%	▲1%	▲8%	▲4%	▲4%	▲0%	+9%	+17%	+7%	+8%	+22%	+5%	+9%	+5%	+9%
欧州	+11%	+13%	+10%	▲3%	+8%	▲4%	▲0%	+0%	+7%	+1%	+4%	+9%	+8%	+1%	+5%
中国	+24%	▲9%	+2%	▲31%	▲5%	▲16%	▲21%	▲12%	▲4%	▲14%	▲1%	+1%	+0%	+2%	+0%
その他のアジア	+10%	+15%	+15%	▲0%	+10%	▲7%	▲0%	▲1%	+12%	+1%	+21%	+7%	+0%	+12%	+9%
インド	+20%	+9%	+26%	▲4%	+12%	+6%	+20%	+0%	+21%	+11%	+25%	+0%	▲6%	+23%	+10%

計測機器 / 領域別売上高前期比

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

	FY2023					FY2024					FY2025				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
ヘルスケア	+24%	+7%	▲4%	▲8%	+3%	+1%	▲4%	+5%	+11%	+3%	+2%	+7%	▲3%	▲3%	+1%
産業 (グリーン、マテリアル)	+15%	+8%	+6%	+5%	+8%	+7%	+2%	+2%	+8%	+5%	▲6%	+1%	+0%	+3%	+3%
アカデミア/官庁	+20%	+25%	+23%	▲2%	+14%	▲2%	▲8%	▲8%	▲7%	▲6%	+9%	▲1%	+14%	+7%	+7%

※為替影響を含む

医用機器 / 地域別売上高

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

単位 億円		FY2024	FY2025	前期比		概況（通期）
				増減額	増減率	
日本	通期	340	336	▲3	▲1%	<ul style="list-style-type: none"> 前年度の放射線治療装置用動体追跡システム大口案件の反動で減少 血管撮影システムなど大型案件の導入計画の見直しがあったことも影響
	4Q	112	106	▲6	▲5%	
海外	通期	386	402	+15	+4%	<ul style="list-style-type: none"> 海外売上高比率は54%(前年比+1pt) その他アジアが大きく増加
	4Q	111	112	+0	+0%	
北米	通期	121	122	+1	+1%	<ul style="list-style-type: none"> 関税影響を受けて厳しい市況の中、X線TVシステムが新製品効果で増加
	4Q	45	33	▲12	▲26%	
欧州	通期	41	39	▲2	▲4%	<ul style="list-style-type: none"> 東欧での医療予算削減の影響で減少
	4Q	6	12	+6	+94%	
中国	通期	39	40	+1	+2%	<ul style="list-style-type: none"> 大規模設備更新プロジェクトによる入札数増加で、X線TVシステムを中心に増加
	4Q	10	11	+1	+9%	
その他の アジア	通期	87	101	+14	+17%	<ul style="list-style-type: none"> 東南アジア、インドで、X線機種が増加
	4Q	24	27	+3	+12%	

医用機器 / 地域別売上高前期比（1-3月）

- 日本：大型案件の導入計画見直しの影響を受け血管撮影システムが減少
- 海外：欧州は昨年的大幅減の反動増。北米は昨年4Qの好調からの反動減で大きく減少

為替影響を含む	FY2023					FY2024					FY2025				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
日本	▲24%	▲20%	+7%	▲17%	▲15%	▲1%	▲3%	▲5%	+3%	▲1%	+1%	▲4%	+9%	▲5%	▲1%
北米	▲18%	+11%	▲2%	+0%	▲1%	+37%	▲8%	▲6%	+40%	+14%	▲2%	+14%	+39%	▲26%	+1%
欧州	+16%	▲7%	+41%	+0%	+12%	+11%	▲30%	+3%	▲44%	▲14%	▲63%	+51%	▲30%	+94%	▲4%
中国	+24%	+38%	+7%	▲5%	+15%	▲36%	▲29%	▲36%	▲22%	▲31%	▲3%	▲20%	+28%	+9%	+2%
その他のアジア	+20%	▲28%	+10%	+27%	+3%	+15%	+47%	+1%	+16%	+19%	▲20%	+28%	+40%	+12%	+17%

為替影響を除く	FY2023					FY2024					FY2025				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
日本	▲24%	▲20%	+7%	▲17%	▲15%	▲1%	▲3%	▲5%	+3%	▲1%	+1%	▲4%	+9%	▲5%	▲1%
北米	▲23%	+6%	▲6%	▲10%	▲7%	+21%	▲12%	▲8%	+35%	+8%	+5%	+16%	+37%	▲28%	+2%
欧州	+7%	▲18%	+28%	▲11%	+1%	▲1%	▲32%	▲1%	▲42%	▲17%	▲62%	+47%	▲35%	+72%	▲10%
中国	+17%	+32%	+3%	▲17%	+8%	▲43%	▲32%	▲37%	▲24%	▲34%	+5%	▲18%	+27%	+7%	+3%
その他のアジア	+14%	▲31%	+6%	+16%	▲2%	+5%	+41%	▲0%	+13%	+14%	▲14%	+32%	+40%	+10%	+18%

産業機器 / 機種別売上高前期比（1-3月）

- **TMP** : 半導体製造装置向けが日本で増加も、中国では前年好調の反動で減少
- **油圧** : 産業車両向けが減少
- **その他機種** : EV用セラミックス部品製造向け工業炉が減少

為替影響を含む	FY2023					FY2024					FY2025				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
TMP	▲3%	+0%	▲0%	+15%	+3%	+27%	+7%	+10%	+12%	+14%	+3%	▲2%	+16%	+1%	+4%
油圧	+10%	+8%	▲4%	+1%	+3%	▲4%	▲4%	▲2%	▲1%	▲3%	▲3%	+6%	+7%	+0%	+2%
その他	▲2%	+2%	+10%	+11%	+6%	+29%	+42%	+7%	▲16%	+12%	▲19%	▲39%	▲4%	+14%	▲13%

為替影響を除外	FY2023					FY2024					FY2025				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
TMP	▲7%	▲4%	▲4%	+6%	▲2%	+17%	+5%	+9%	+11%	+10%	+8%	▲3%	+14%	▲2%	+4%
油圧	+9%	+7%	▲6%	▲2%	+2%	▲7%	▲5%	▲3%	▲1%	▲4%	▲1%	+6%	+6%	▲2%	+2%
その他	▲4%	+1%	+8%	+6%	+3%	+22%	+40%	+5%	▲16%	+10%	▲16%	▲38%	▲4%	+13%	▲13%

※FY2024Q1より、従来「航空機器」に含まれていた海洋関連機器の業績を、「産業機器」へ移管。
FY2024およびFY2023の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた上で、FY2024/FY2023の前期比較においては、前年の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較。

リカーリング比率（1-3月）

- 計測：北米・中国・インドで医薬向けに消耗品が、欧州で臨床向けメンテナンス・サービスが増加
- 医用：東南アジア・インドでメンテナンス・サービスが増加
- TMP：日本・中国・台湾・韓国で顧客カバー率向上により増加

計測	FY2023					FY2024					FY2025				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
リカーリング売上高 前期比	+10%	+3%	▲4%	▲2%	+1%	+0%	+4%	+10%	+7%	+6%	+10%	+6%	+5%	+7%	+7%
リカーリング比率	39%	35%	37%	34%	36%	41%	38%	40%	35%	38%	42%	38%	41%	37%	39%

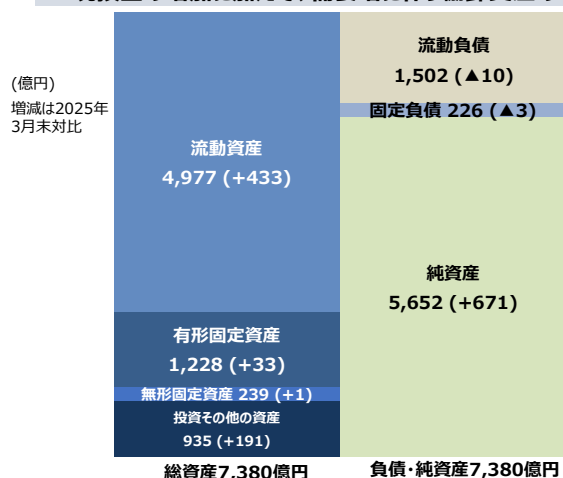
医用	FY2023					FY2024					FY2025				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
リカーリング売上高 前期比	▲3%	▲7%	+1%	+0%	▲2%	▲1%	+0%	▲0%	+4%	+1%	+6%	+5%	+5%	▲1%	+3%
リカーリング比率	42%	34%	37%	33%	36%	41%	36%	40%	34%	37%	47%	35%	37%	35%	38%

TMP	FY2023					FY2024					FY2025				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
リカーリング売上高 前期比	▲9%	▲8%	+10%	+36%	+6%	+46%	+50%	+34%	+28%	+38%	+24%	+23%	+29%	+32%	+27%
リカーリング比率	15%	14%	18%	17%	16%	19%	19%	22%	19%	20%	21%	25%	25%	26%	24%

※為替影響を除く

連結財政状態 (連結貸借対照表)

- 2026年3月末総資産 7,380億円 (2025年3月末から+658億円)
- 現預金の増加に加えて、需要増に伴う棚卸資産の増加もあり、流動資産が増加



資産

流動資産 **+433億円**

- 現金 +239億円
- 棚卸資産 +87億円

投資その他の資産 **+191億円**

- 退職給付に係る資産 +132億円
- 投資有価証券 +52億円

負債・純資産

流動負債 **▲10億円**

純資産 **+671億円**

- 利益剰余金 +409億円
- 為替換算調整勘定 +153億円

自己資本比率 **76.6% (+2.5pt)**